令和６年度　第３回海陽町学校のあり方検討委員会
議事録

日　時：令和７年２月 28 日（金）18:30～19:30
場　所：阿波海南文化村 海南文化館　大会議室
出席者：委員１６名中１０名出席
事務局：（担当課）海陽町教育委員会　三浦教育長、森﨑教育次長、浦川課長補佐
　　（受託者）リージョナルデザイン株式会社　安孫子、宇田

■　会次第
１　開会
２　教育長あいさつ
３　議事
　（１）　今後のスケジュール
　（２）　再編に伴う準備委員会について
　（３）　その他
４　閉会

（皆津委員長）
　それでは、議事を進めます。議題１「今後のスケジュール」について事務局より説明をお願いします。

（事務局）
　資料１をご覧ください。今年度は住民説明会を３地区で実施をしています。説明会では、学校再編基本計画の内容のもとで、最も重要な教育の方針や取り組みについて、教育振興計画の概要を説明しています。３地区で意見交換を行う中で、賛成や反対とかそれぞれの立場で意見がございます。また、今回の住民説明会に時間の確保ができず、参加できないという方もいることも考えて、保護者さらには地域や学校から要望があれば意見交換の場を開設し、地域の実情ニーズなど意見交換をして学校の適正規模、適正配置への共通理解の確立を図っていきたいと考えています。
　説明会の実施内容については、前回の委員会で報告をさせていただきましたが、地元説明会の意見として例を１つ挙げると、海部小学校が令和９年度以降に再編されることに対して、「海部小学校は小規模だからこそ手厚い学習環境が魅力であると感じています。これが海南小学校と統合して人数が増えることで、生徒への目が届きにくくなることや教育の質が下がるというような、子どもとの関わりが希薄にならないか不安があります。」という意見をいただいています。
　事務局としては、再編にあたっては、人数が増えることで教育の質を下げないように子どもの教育を第一に一人一人に応じた教育ができるような形を考えています。また、海部小学校の ICT 教育は全国的にも有名であるため、海南小学校と統合してもその教育を継続して行える環境を整えていくことを考えています。
　また、来年度は教育振興計画の改定の業務があります。次の第４期教育振興計画は、令和８年度から令和 12 年度までの計画期間となります。来年度に海陽町教育振興計画のアンケ

ート調査を実施予定であり、例えばアンケート調査の結果報告と統合の説明会を考えています。統合は複式学級となる前までに統合する必要があるため、海部小学校と海南小学校の児童生徒数の推移から、令和９年度以降に統合して２校２校体制が望ましいと計画の方でも考えています。児童生徒数の変化によっては、令和９年度になることもあります。中学校では、海陽中学校と宍喰中学校の統合も同時検討していきたいと考えています。以上で説明を終わります。

（皆津委員長）
　事務局より今後のスケジュールについて説明してもらいました。この内容について質問等はありませんか。

（岩浅委員）
　この前の学校運営協議会で、委員の方から意見をいただき、海部小学校の中でも色々な意見があると伺っています。子どもの意見をもっと聞いてほしいという意見もありました。
　また、今年度の海陽町全体の出生数が 16 人と聞いたのですが、どうなのでしょうか。

（事務局）
　12 月までの数字ですので、３月までいけばもう少し増えると思います。

（岩浅委員）
　これから海部小学校と海南小学校を統合して、将来的には１校１校体制になることを考えると、海陽町全体の子どもの数が 10 数人ということであれば、この方針がどうなるのかと思います。

（皆津委員長）
　町全体で 16 人ということでしょうか。

（事務局）
　その通りです。去年が 23 人、その前が 21 人、さらにその前は 38 人となっています。そのため、令和４年度くらいから大きく減っています。

（岩浅委員）
　海部小学校の存続を求める声もありますが、将来的には致し方ないという意見も保護者や評議員からはありました。海部小学校と海南小学校を統合したとしても、人数的に可能なのでしょうか。

（事務局）
　流れとしては、３校２校体制が２校２校体制になり、部活の関係などで中学校が先に統合されて２校１校体制になるタイミングで、一緒に小学校も１校１校になる流れがあるというのは絵で描かれていたところであります。また、もう１つの流れとしては、すべてのクラスで複式が解消できない状況になる手前で、教育の質を下げないために統合するということも考えられます。

（岩浅委員）
　全体での人数が 10 人、20 人であるのならば、スケジュールあたりがどうなのかなと少し疑問はあります。

（事務局）
　一応、令和９年度以降になっていますが、令和９年度に再編・統合になることももちろんあります。そうなると、令和８年度には学校再編準備委員会を設立する必要がありますし、令和７年度にはそのタイミングがどうなのかというのをしっかり検討する必要があります。
　令和９年度に決めたら、今言った流れで、準備委員会の方で通学の課題や教育的な課題、校歌や制服など具体的なことを話し合うようになると思います。

（皆津委員長）
　アンケート結果からも色々な意見があって、学校を続けてほしいというのもあれば、できるだけ早く大きい学校と一緒になりたいという意見もあると思います。
　私個人としては、大きな学校に吸収されるよりも、小さな学校で文化や地域住民との交流を大事にしながら進めてほしいと思っています。

（事務局）
　現時点で、令和９年度の海部小学校の１年生は３人の予定となっていますので、複式学級の解消が難しくなると思います。
　ただ、海部小学校の場合は色々な取り組みや、少人数での学びに対する魅力的なところで流動的な部分はありますので、まだ先は読み切れない状況です。

（辻委員）
　今まで検討委員会をやってきて、町の方や委員の皆さんの意見をもとに２校２校体制をしていこうと進めています。人数は少ないですが、それはそれでまた後で考えるとして、町や検討委員会で決めてきた２校２校体制に向けて進めていった方がいいかなと思います。

（三浦教育長）
　人数は間違いなく減っていきます。令和 16 年の予定数は海陽中学校が 71 人、宍喰中学校が 28 人となっています。小学校は令和 10 年まで計算していまして、海南小学校は 109 人、海部小学校は 42 人、宍喰小学校は 56 人となっています。予定数ではありますが、これからどんどん毎年減っていくことは間違いないです。

（皆津委員長）
　昔、海南小学校にいた時に東洋町から海南小学校に来ていた子がいましたが、現状はどうなのでしょうか。

（事務局）
　東洋町からは多いです。この４月に野根小学校が休校になる関係で、野根地区の方から海部小学校に１、２名ですが入学希望があります。また、中学校にも入学希望はあります。

（皆津委員長）
　それでは次の議題に移ります。議題２「再編に伴う準備委員会について」、事務局より説明をお願いします。

（事務局）
　資料２をご覧ください。合意形成について、先ほど申しました海部小学校と海南小学校の統合について海南、海部、宍喰の３地区で説明会を開催しています。
　運営上の課題に挙げている再編の時期の判断については、先ほど少し触れましたが、１つの小学校ですべての学年において複式学級になることがもう免れないという状況、複式学級が解消できないということを１つの判断基準にしているという趣旨を説明しています。
　現在、海部小学校は県の加配と教員の先生の対応によって複式学級を解消していて、１つ１つのクラスには１人の担任の先生がいるという本来の姿を保っています。ただ、これが１つ崩れると複式学級を解消することができないという状況になります。
　そこで、令和７年度の学校再編に関して、要望があればということになりますが、住民説明会の実施ということで、実際には具体的な内容になって初めて保護者の方も動いてくると教育委員会でも考えていまして、再編後の通学の課題や教育的な課題などの不安な点について集約、検討ができればいいと考えているところです。
　内容としては、次期の教育大綱、次期の教育振興計画の概要の説明を行い、もしアンケートをするなら、学校再編の課題も聞き取るような形を考えています。
　合意形成の進め方というのは、学校の関係者の間でも十分に検討できる時間をかけていくことが大事だと思っていますし、時間的に余裕を持って計画的に学校再編を実施する姿勢は方針で持っておくべきと考えているところです。
　また、学校再編準備委員会の具体的な部分については、委託事業者に色々教えていただいて、検討していきたいと考えているところです。

（皆津委員長）
　複式学級について、再度どういうものか教えていただけますでしょうか。

（事務局）
　小学校の場合、１年生を含む場合は８人、あとは下から足して16人となった場合に複式学級になります。中学校の場合は、８人で複式学級になります。小学校、中学校ともに普通学級の児童生徒数で、特別支援学級の児童生徒数は含まれていません。

（三浦教育長）
　来年度には、宍喰小学校にも複式学級が１つできる予定です。
　また、複式学級が１つでは加配職員はつかないので、教頭が担任をすることになります。海部小学校は、県から加配職員が１人入って、もう１つは教頭が担任をすることで複式学級を解消しています。

（皆津委員長）
　それでは最後の議題に移ります。議題３「その他」について、何かございませんでしょうか。

（谷本委員）
　先行事例では何回も学校再編の委員会が開かれたということで、なるべく早く２校２校体制に向けて、意見交換会や保護者説明会、子どもたちの交流とかを早めにしていただいて、準備段階を踏んでから再編していただけたらなと思います。

（三浦教育長）
　昨年３月に再編基本計画を策定して、いわゆる２校２校体制として令和９年度以降に海南小学校と海部小学校を再編統合し、その後、小学校２校、中学校１校体制を挟むかどうか含めて、最終的には１校１校体制を目指すことになっています。
　令和９年度以降という言葉になっているので、これから来年あたりの児童数や生徒数とかを見ながら、それから今の教育の現状を見ながら、どの時点で再編するか意思表示をしていないと、説明会に行っても、委員会を作っても、全く現実的でないのでなかなか難しいかなと私は考えています。
　一応、この年度にしますと決めて、そこから準備委員会のことも含めて逆算していって、すべての人が納得することは非常に厳しいかと思いますが、何回も足を運んで合意形成を図りながら進めていくのが１番大事だと思います。そのため、来年度以降にこの年度というのを決めて進めていくのが１番かなと思っていますが、いかがでしょうか。

（谷本委員）
　海部としては、新しく制服や校歌を作っても、何年後かに１校１校体制になる時に再び新しい制服や校歌を作るというのは、コストがたくさんかかることや、子どもたちも慣れた頃にまた次の再編というのは大変だと思うので、もしかしたら次の１校１校体制まで引っ張れるのではないかなという意見もあります。
　ただ、２校２校体制の話でずっときたので、仕方ないですし、それでいいとは思いますが、そういうことも説明を踏まえてという感じではあります。
　人数も、６年後には宍喰も含めて海陽町全体の子どもの人数が減っているということなので、それを保護者たちが納得できるように説明できるかと言われたら難しい部分はあると思います。

（事務局）
　令和 11 年では、宍喰小学校は 50 人程度と今の海部小学校と同じくらいになります。

（三浦教育長）
　平成 23 年の再編時には、海南小学校が 279 人、海部小学校が 72 人、宍喰小学校が 148 人、海陽中学校が 210 人、宍喰中学校が 81 人となっていました。
　今年は海南小学校が 119 人と 160 人減、海部小学校が 50 人と 22 人減、宍喰小学校が 82 人と 66 人減、海陽中学校が 91 人と約 120 人減、宍喰中学校が 48 人と 33 人減となっています。減少率では海南地区が大きくなっています。

（皆津委員長）
　海南地区と宍喰地区は減っているが、海部地区はそれほど減っていないということです。

（谷本委員）
　海部は不便なところはありますが、空き家に移住してくる人が結構いる印象があります。

（事務局）
　海南地区と海部地区は近いこともあって、海南小学校区の子どもが海部小学校に通うことも過去にはありました。
　また、来年４月から認定こども園ができて、今の幼稚園でも行っていますが、ICT 教育で１人１台タブレットを使った学習も行われます。それに合わせて、来年の２学期からは英語のイマージョン教育も行われます。そういうことを聞きつけて、地域を飛び越えたところで、そこに通わせたいと思う方も出てくるかもしれないです。

（吉成委員）
　ICT 教育やタブレット関係について、世界的に先進地であるスウェーデンでは紙に戻してきたという話もあります。今の日本はタブレットでの教育に向かっていきますが、あるところがきたら、小学校とかの基礎的な部分では紙に戻ってくるかもしれないです。

（三浦教育長）
　日本でも、今はデジタルと紙は半分ずつ使うように国から言われていますが、教科書が完全にデジタル教科書にシフトしていますので、やがて紙の教科書はなくなると思います。

（皆津委員長）
　英語教育は１年生から行っているのでしょうか。

（事務局）
　海陽町の場合は保育所、幼稚園で４歳や５歳から英語教育を行っています。
　また、今度の認定こども園では新たな取り組みとして、完全に英語だけの環境、そこには日本語が話せる人がいない環境で、最初は何を話しているのかわからない状況から、自分で意味を考えて判断や決断をしていくようなことを考えています。先日、子どもの体験会を保護者の見学も受け入れる形で行いました。その前には先生方にも体験会を行っています。

（三浦教育長）
　職員室のペーパーレス化も今進んでいます。

（事務局）
　例えば、授業でも使えないような大型モニターや、スペックが少し古くなったタブレットを使って、時間表示のほか業務の情報共有を行っています。
　教室でも、海部小学校で先駆的な試みとして行うことを考えており、町長や教育長とともに国、文部科学省の方と ICT 教育の話し合いを行ってきました。教員の働き方改革にもなりますし、生徒にも情報が直感的に伝わるということで、来年から進めることを考えています。

（皆津委員長）
　感想として、紙媒体は脳に残るように思います。何もかもICTにするのではなく、そのあたり上手に使い分けていく必要はあると思います。

（事務局）
　先ほどの吉成委員の話にもありましたが、スウェーデンでは紙でやると定着率があるということで戻ってきています。
　また、先生方の中にも、チョークでの板書がいいという方もいます。今はワイードというプロジェクターを入れており、これは黒板での板書もしながらモニターでも色々なものを映せるといった併用できるタイプのものになっています。
　来年には、また1教室ずつ導入することになりますが、各学校から視聴覚の担当の先生が集まるICT部会を通して、設置場所の検討やどのようにしたら効率的にできるのか話し合いを進めていきたいと考えています。実際にICT部会からは、例えばアンケートを実施する時に Google フォームを活用したら集約も早く、傾向もグラフで全部出てくるので便利になっているという声は多くありました。

（三浦教育長）
　今の若い人は、紙で何かに申し込むことはしなくなっています。

（事務局）
　実際にコロナ禍で、海陽町特産たくさんふるさと便ということで、学生証と申し込み用紙を提出すれば、海陽町の特産品を送る取り組みをしましたが、デジタルでの申し込みの方が早く特産品を発送することができました。保護者にお願いして紙で申し込んだ場合は、手間がかかって、行ったり来たりしている状況でした。その点で、学生はデジタルに慣れていると思います。

（平岡委員）
　板野郡にある学校も筆記ではなくパソコンでノートを取っていると聞いていて、すごいと感じています。

（事務局）
　おそらく上板町の高志小学校だと思います。そこの校長先生で、現在は徳島県教育委員会の教育長である中川先生と、海部小学校の溝内先生が徳島県のICT教育でツートップとなっています。

（三浦教育長）
　タブレットを活用してから、全国学力・学習状況調査において海陽町の課題であった自己肯定感が上がってきています。確かめようはありませんが、授業がわかりやすくなったり、発言の機会がたくさんできたりしたことで上がったのではないかという話が校長先生からありました。

（皆津委員長）
　それはいい話だと思います。特に自尊心や自己肯定感は大事なことです。

（三浦教育長）
　これまでは平均以下だったものが、平均を遥かに超えるようになりました。

（平岡委員）
　人数が減って、手厚い教育になったことは関係しているのでしょうか。

（三浦教育長）
　それもあるかもしれませんが、やはり活躍の場があることや、授業の理解度の質問でも、「よくわかる」という回答が多くなっていることは関係していると思います。

（皆津委員長）
　体力調査の方はどうでしょうか。

（三浦教育長）
　あまり分析はできていない状況です。

（皆津委員長）
　学力だけでなく、体力も大事になると思います。学校体育はあまり影響ないと思いますが、社会体育は単独でできないこともあって、合同で２校３校が集まって、その中で体力を養っていかなければならない厳しい現実があることも知っておいてほしいと思います。

以上